

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

2000年(平成12年)9月号(通巻第10号)

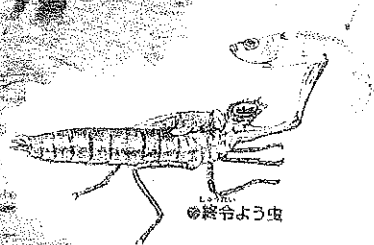
刀根山小学校

ヤゴ採り大会大盛況!!



◎1令よう虫

メダカ



◎終令よう虫

*「ヤゴ」とは、
トンボの幼虫で
水の中で成長
します。

*刀根山小学校で行なわれた「ヤゴ採り大会」の1コマです。

本号のハイライト

- P. 1 ヤゴ採り大会大盛況!
- P. 2 平成12年度(2000年度)総会
- P. 4 各部会・プロジェクトのこれまでの活動
- P. 6 参加団体の横顔・ジャスコ豊中店・
- P. 7 ひと・人・hito・松林博明さん・

刀根山小学校PTAでは、教職員も参加して、「生きものの里実行委員会」を今年立ち上げ、生きものたちの生息空間であるビオトープづくりを計画しています。その一つとして6月2日(金)午後、ヤゴ採り大会が行われました。

この日「生きものの里実行委員会」の呼びかけで、4年生以上の子どもたち100人近くが参加しました。まず多目的教室で自然部会の河野猪太夫さんによるビオトープの意義と自然との共生についてのお話があり、その後、プールに移動し、ヤゴ採りを行いました。

プールには、シオカラトンボやイトトンボのヤゴの他、えさになる微生物も生息しており、それらをプールサイドに設置したルーペで観察をしました。

子どもたちは「いつ卵を産みつけたんやろ?」「たくさんヤゴがいて、びっくりした!」など口々に話していました。担当の鈴木先生も「初めて行ったプールの中の生きもの調査でしたが、子どもたちは生きものへの興味を、体で感じたと思います。これをきっかけに今後のビオトープづくりにつなげていければ。」と話されていました。

年々広がるビオトープの輪。地域の人の和もつくるビオトープ。もっともっと大きくなればいいですね。

平成12年度(2000年度)総会と記念イベント開催

6月14日(水)午後、市民会館大集会室において、第5回総会と記念イベント「パートナーシップの輪を広げよう」を300名あまりの参加者のもと開催しました。

第1部の総会では、昨年度の活動報告や決算報告、今年度の活動方針案、予算案、新役員案が提案され、承認されました。続く第2部では、パネルディスカッション「これからのとよなか市民環境会議～パートナーシップの輪を広げよう」を行い、コーディネーターの盛岡通さんを中心に今後の活動の在り方について話し合いました。時間が経過したにもかかわらず、多くの皆さんが最後まで熱心に耳を傾け、環境問題を通じて新たに人の和へ、活動の広がりを感じた時間となりました。



第2部 パネルディスカッション

「これからのとよなか市民環境会議～パートナーシップの輪を広げよう」(要約)

- ◆コーディネーター 盛岡 通さん(大阪大学大学院教授)
◇易 信子さん(自然部会・島熊山の雑木林を守る会) ◇青山 宏さん(㈱阪急バス経営企画室)
◇奥野 享さん(ワーキンググループ座長) ◇田中逸郎さん(市民生活課長補佐兼地域活動係長)

盛岡 5年目の運動ということで活動も本格化するべきときに来ていると思います。自己紹介を兼ね、活動の内容などについてお話しください。



す。電気式ハイブリッドバスを4台導入していますが、また福祉の視点からワンステップバスも導入を始め、さらに圧縮天然ガス車両なども検討中です。



易 自然部会で活動しています。観察会をしたり、造園業の方の協力で学校剪定枝をチップにし堆肥に戻す運動もさらに増えています。また自然が少なくなる中で、狸が道路に出てきて車にひかれたりします。私たちの会で「たぬき注意」の看板設置を行政に要望し実現しました。このようなパートナーシップの活動ができてよかったと思っています。



奥野 アジェンダができ、市民の活動が始まると次々と課題が増え、20項目以上に及んでいます。買い物袋持参運動やエコショップ調べでは量販店といっしょに取組みをおこない、花いっぱい運動では行政の協力も得て、地域といっしょに公園での花づくりが始まっています。これらの運動を一時的にはなく定着させ発展させるのが今後の課題です。



青山 阪急バスとしての取り組みですが、全車両に市民環境会議のストップ・アイドリングのステッカーをつけ、停車中はエンジンを切るよう指導していま

田中 市民活動にはいろいろな種類のものがあります。NPO法もでき行政としては市民の公益活動と協働して公共的課題を解決する必要がありますが、そ

平成 12 年度 (2000 年度) 活動方針

基本方針

1. 豊中アジェンダ21の推進と温暖化防止
京都会議 (COP3) 決議の実現をめざして、市民・事業者・行政がそれぞれの立場で主体的責任を自覚し、出来ることから直ちに自主的な行動を強めます。
2. 豊中アジェンダ21に基づく市民・事業者・行政の連携した行動を企画し推進することで、相互交流、相互支援を推進するとともに、市民環境会議の自主的な活動基盤を育てていきます。

具体的活動計画 (抜粋)

- ・「とよなか市民環境展 2000」の開催
- ・環境家計簿(エコライフカレンダー)の普及
- ・エコオフィス活動の推進
- ・ストップ・アイドリングキャンペーン
- ・身近な環境調べなど自然観察会の開催
- ・竹炭づくりと関連イベントの開催など
- ・生ごみ堆肥を使用した花いっぱい運動
- ・豊中アジェンダ21 普及のためのイベント開催
- ・ニュースレターの発行増とインターネットの活用
- ・諸活動推進のための財政基盤・事務局機能の強化



のための支援として情報の収集・提供・公開から、さらに市民参画と協働事業を行うことも必要になってきています。

ただ、行政にはいつも公平・中立の立場が求められています。そんななかで、どのような公共サービスが提供できるか追究し努力したいと考えています。

盛岡 会場からもご意見をいただきたいと思いません。

山本 (北条小) 学校剪定枝のチップからつくった堆肥を学級園やプランターに使うだけでなく、ジャングルジムの下にクッション材として埋め込むなど、いろいろな活用方法が増えたり運動の拡大も進んでいます。



井上 (イズミヤ) 市民の皆さんの買い物袋持参運動やエコショップ調査などに敬意を表すると同時に、消費者のニーズが必ずしもエコロジーの方向に向いていないのも現実として認めなければなりません。環境に配慮するよう量販店自身も転換を図ろうと、それぞれの会社でいろいろ

模索しているところです。

河野 (自然部会) 「遠くの緑はいいが近くの緑は切ってほしい」とよく言われます。じゃまだから木を切るよりも、手入れをし名札をつけて木の名前がわかるようにしたりして自然に親しみが持てるようにし、自然を残す方向で地域をあげて取組み成功した例も私たちは経験しました。



その後討論は、予定時間を超えて続きました。最後にコーディネーターの盛岡さんが次のように討論を締めくくり集会を終えました。

「市民環境会議のパートナーシップも5年になると、ホンネで話し合っ問題の所在を明らかにすることで運動が一層進むこととなります。それを実現する力量がついてきていると思います。市長をトップにした組織として発足した市民環境会議ですが、今後は市民自身で組織を束ねる働きと、一方で積み重ねてきた運動の力をより拡大強化していくことで、一層の発展をとげていただきたいと思います。」 (文責・奥野)



各部会・プロジェクトのこれまでの活動

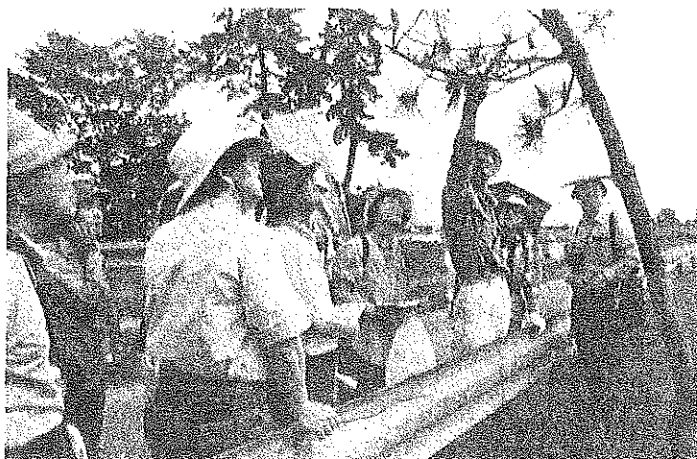
自然（ビオトープ）部会

観察会で大満足！

タンポポ調査 全国的に展開されるタンポポ調査に参加する形で取組みました。調査には市内の希望者を募り、3月25日に説明会をもち、その後服部緑地でタンポポの見分け方など講習会が行われました。調査は42人の参加を得て、1人約1km²を受け持ち4月1日～5月初めまで行われ、4,196件にのぼる数多くのデータが集まりました。この結果は、12月の環境展に展示します。

春の自然観察会 5月10日、午後1時より服部駅に集合し、服部天神から住吉神社を経て天竺川沿いに下り、庄内東町5丁目の児童遊園で解散するというコースで行われました。参加者は約30名で服部天神の由来や住吉神社の能舞台、天井川の様子などを見て、最後に児童遊園で、桐の大木の花を見て香水のような香りをかいだりして終わりました。

ホタルの観察会 6月1日、ワーキンググループを中心に案内でしたが、40名余りの参加があり、当日の夜はヒメホタルも多く見られ、参加された皆さんは満足されていたようです。（山口）



だけすみ

竹炭の会がくやんぼー

竹炭を入れてご飯を炊けば？

ものを作るということはとても楽しいことだと思います。ドラム缶を使用しての竹炭焼きを、昨年4回行いました。

通風口を調節しての温度管理と煙の状態を見ながら経過を観察する。このときの煙の変化を見落とさないことが重要なのです。でもまだまだ分からないことばかりです。データを蓄積していきます。

他所を見学して、研鑽を積まなければと、去る6月には有志で岬町の竹炭焼きを見学してまいりました。窯や規模など大分異なりますが、今後の参考といたします。

また、7月にはくらしかんで前年度作った竹炭で実験を行いました。（水道水の試飲とご飯の試食）臭い・味・粘着度・色・pHを調査しました。水道水に

は12時間、竹炭入りと無しで実験。水1Lに対して竹炭50g（3～5片）。紙面の都合上、最終評価のみ下記します。（評価者には事前に何も教えておりません）

今年度は10月から来年3月にかけて5回の竹炭焼きを計画しております。竹に親しんでいただくための学習会（子ども、一般を含めて）の3回シリーズも予定しております。（初回11月）竹林の大切さ、保全、用途の多様性などについて一緒に考えてみませんか。どちらも皆さんの参加をお待ちしております。詳しくは事務局まで。とにかく今年は良い音色が響く竹炭をめざします。と同時に竹酢液もたくさん採取したいと皆、張り切っているところです。（三宅）

	水		ご飯	
	竹炭入り	竹炭無し	竹炭入り	竹炭無し
評価者 8名	8名中5名が おいしいと回答	8名中3名が おいしいと回答	8名全員が おいしいと回答	べちゃつき、明らかに味が 落ちると8名全員が回答

*通常の水道水を3名がこちらがおいしいと感じたのは、かつてのカルキ臭さが無くなり普段飲みなれているからかも？

事業者から見たマイバッグ運動 7月15日、チェーンストア協会の松本猛さんから話を聞きました。参加者は24人。「①同協会が環境問題にどう取り組んでいるか、②レジ袋の現状について、リサイクル費用として、指定法人への支払額も新たにかかり、コスト削減に努めている。有料化の話もあるが、現実問題として難しい。」質疑応答では、循環型社会推進基本法との関係や、レジ袋の有料制の可能性、生ごみなどが話されました。引き続き定例会でも松本さんを交え、意見交流が行われました。

ごみゼロ運動に取り組むアサヒビール工場見学 8月10日、吹田工場へ、参加者は30人。ビールの製造工程を見学。リサイクル説明コーナーで各工程から発生する副産物・廃棄物の再資源化のフローや29種の廃棄物の現物のサンプルを見ました。その後全国の工場での再資源化100%（ごみゼロ）を達成した取組

みについての映像を見ました。再資源化量としては濾過工程で出るモルトフィードが一番多く、飼料として使われます。ビールびんはリサイクルの優等生で、平均年3回、8年間使用されます。見学後、ゲストルームで試飲、懇談交流を行い和やかな雰囲気のうちに見学会を終えました。（宮田）



企画屋本舗

アジェンダ

環境ひろめ隊始動!!

今年の企画屋本舗は、昨年からの合言葉である「楽しくてためになる」をモットーに数回の講座を考えていきます。どの部会やプロジェクトも取り上げないテーマで、企画屋ならではのものができたらと思っています。（そんなんでできるん？）ポツリポツリと強力な新メンバーも増え、現在10人になりました。

まずは、昨年までの「エコキャラバン隊」の後続として、豊中から豊中らしい文化の発信もでき、もちろん「豊中アジェンダ21・101の提案」を普及推進する、人材バンク的な「環境ひろめ隊」を募集するこ

とにしました。今はまだワーキンググループに登録依頼をしていますが、いずれ参加団体にも広げていく予定です。

例えば「我が家でできる省エネ」や「グリーンコンシューマーって何?」とか「豊中にある自然の話」「自然素材のおもちゃづくり」などなど、環境をよくするためのユニークな内容を考えています。また環境展では、メンバー総出演で「環境問題は今」的なテーマで寸劇を予定しています。ご期待ください。（今井）



交通部会からのお知らせ 貼っていますか?

11月をストップ・アイドリングキャンペーン月間と定め、市内各所で広報活動を行います。マチカネワニのステッカーが目印です。ドライバーの皆さん! 停車時にエンジンを止めるというあなたの行動が、地球温暖化を防ぐ一歩です。ステッカーを車に貼って、ストップ・アイドリングを広めましょう。

産業部会からのお知らせ エコオフィス運動に取り組みます!

あなたの職場は環境にやさしい職場でしょうか?

産業部会はオフィスの環境度を調べるエコオフィスチェック運動を11月に計画しています。

職場の省資源・省エネは経費の節約にもつながります。ぜひ、一緒に取り組んでください。

「土から生まれた物は、土に返したい」と、生ごみや剪定枝などをごみとして燃やさず利用できないかと堆肥化に取り組んで、1年経ちました。

私たちは、2回の生ごみ堆肥化の実験を通してコストや場所の問題、かかわる人や機材、できた堆肥の利用先の確保など、プロジェクトとして実験報告と提案をまとめました。いろいろと解決しないといけないことがたくさんありますが、これからも私たちは、ごみを資源として良い堆肥を作るということも一番の目的にして取り組んでいきたいと思います。

見学会で配布しました堆肥は、「花つきが長い」と好評です。どうしたらたくさんの方に使っていただけるか考えております。

また、花いっぱい運動の清谷池公園では、猛暑の中、地域のメンバーが水やりなど花の

世話を続けています。一切肥料は使わず、生ごみ堆肥だけのガーデニングですが、ばらの季節だけでなく花を見に公園に来られる方も増え、そこで世間話に花も咲く今日この頃です。

お近くの方、秋の花壇の準備作業を計画しております。また、あなたの力を貸してくださいね。（高島）



参加団体の
横顔

とよなかのあちこちで環境への取り組み

「お客さんと一緒に取り組んでいます！」

ジャスコ豊中店

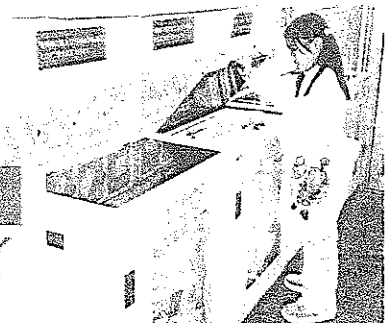
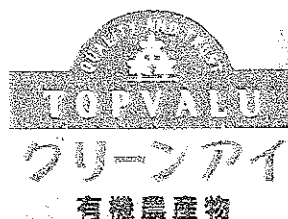
今回は豊中駅前のジャスコ豊中店の訪問です。店に入るとすぐに野菜売り場があるのは、たいがいのスーパーに共通していますが、ジャスコで目についたのは棚に貼り付けてある「グリーンアイ」と書いたマークでした。店長の尾崎弘貴さんによると減農薬自然志向の野菜をはじめ人工着色料や人工甘味料を使わない食品のマークだとか。

ジャスコでは安心して食べられる食品だけでなく、昨年からISO14001を全社で認証取得に向けて活動をはじめ、省エネ・省資源の推進、廃棄物の削減などに取り組み、今年6月に認証取得されました。

でも一方では個人消費の低迷やコンビニの増加などで、量販店業界をめぐる状況はかなり厳しいものがあり、いろいろな面でコストを削減しなければなりません。そのような時代の経営的配慮に合わせ、環境にも配慮する立場から、9月はチラシを3分の1減らしてみようという大胆な取り組みも実験的に行っているという話でした。

厳しい経済状況のもとでは、元旦から営業をはじめ、夜は10時まで店を開けなければならないという話もちょっぴり。でも店頭のリサイクルボックスがいつも清潔に保たれているところに、店と客の良い協力関係があるのを感じました。「お客さんも良く洗ってもってきてくださいます」と店長は優等生の答えでしたが、2階の踊り場に貼り出されていた買物客の意見に「いいね」に回答を書かれている尾崎さんの姿勢も印象に残りました。

秋のマイバッグ運動もよろしくとお願いし取材を終えました。（取材：奥野、東郷）



ひと・人・hito 松林 博明さん（前十五中学校長）

このコーナーでは、地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介していきます。
第1回は学校でビオトープづくりに尽力された松林さんです。どんなお話が聞けますやら……。

—松林さんの自然とのふれあいをお聞かせください。
北陸の片山津で育ちまして、子どもの頃は自然の中で木の実や魚をとったり、ボート遊びなどをしたりしたことを小学校に赴任した時に思い出しました。今の子どもたちはコンピュータや音楽、イラストなどは非常に上手なのですが、昆虫を怖がったりする子どもがいることは少しさびしいですね。
—ビオトープづくりはどのようなきっかけで？
ビオトープという言葉を知ったのは、高川小学校にいた頃に自然部会の方とお知り合いになってからです。十五中に移った際、十五中ではその年が20周年でしたので、何か記念に残るものということでビオトープづくりを提案することにしました。
—ビオトープを造るまで、苦労されたでしょうね。
まずビオトープという言葉自体を知っている方が少なかったですし、また日常の学校現場だけでも結構忙しいということもあって、理解を得るまでに時間が必要でした。実際、構想段階からビオトープをつくるための会議を開くために、4ヶ月かかりました。
—決まってからはどうでしたか？
お金のこともありましたが、できるだけ自分たちで造ろうと思いましたので、生徒たちにも手伝ってもらうことにしました。その際にもクラスに割り当てるのではなく、自主的なボランティアで動員しましたが、日によって誰も来なかったり、またある日は50名くらい集まったりしたこともありましたね。またPTAの方にも大変お世話になりました。池の底が通常の土だと、肥沃すぎて藻が発生するということが他の小学校の方にお聞きしまして、地域の方に無償

で粘土を分けていただいたこともありまして。また、土をスコップで掘るにはとても無理なくらい固い地盤が表れたりもしたのですが、造園業をされている方に無償で土を機械で掘っていただいたことも本当にありがたかったですね。
—地域的な結びつきもできたのでしょうか？
ビオトープのためのセリやクワイ、ヤゴ取りなども、地域の方に協力していただいたことのひとつですが、それを機会に休眠状態だったサークルが活性化したり、新しいサークルができたりしました。学校現場だけではなかなか話す機会も少ない我々にとっても、地域の方とおつきあいをさせていただくことで、非常に勉強になることがたくさんありましたね。
—生徒たちは喜んでくれましたか？
最初は戸惑っていたようでしたが、ビオトープができるにつれ興味を持ってくれる生徒が増えていきました。中でもヤゴが羽化したときには感動もひとしおだったようです。
—最後に環境教育について一言お願いします。
私も子ども時代に自然とふれあったことが今回のきっかけになりました。今の子どもたちにもいろんなことを体験してもらって、その上で例えば「ごみは捨てないでおこう」というように考えてもらえるようになればと思います。
—本日はありがとうございました。（文責：水谷）



とよなか市民環境会議の活動支援のため、今年度も多くの団体に協賛金をいただきました！

（8月末日現在）

協賛団体／豊中建設業協会、豊中造園建設業組合、日本労働組合総連合会豊中地区協議会、豊中市労働組合連合会、豊中市教職員組合、豊中市管工事協同組合、豊中市排水設備工事公認業者協会、豊中青年会議所、豊中環境事業協同組合、協同組合大阪再生資源業界近代化協議会豊中支部、豊中商工会議所工業連合部会、豊中商工会議所、豊中ライオンズクラブ、豊中北ライオンズクラブ、豊中千里ライオンズクラブ、NTT西日本北大阪支店、大阪ガス(株)北東部事業本部、(社)豊中市歯科医師会、(社)豊中市薬剤師会、ホテルアイボリー、関西スーパーマーケット、いかりスーパーマーケット、大丸ピーコック、大阪北生活協同組合、(財)生活環境問題研究所、(株)関西総合研究所、(株)東京設計事務所関西支社、(株)ジャス、(株)三水コンサルタント、松下産業機器(株)、阪急バス(株)、北大阪急行電鉄(株)、大阪高速鉄道(株)、さわ病院、小曽根病院、総合坂本病院、養因寺、ゆうの会（南桜塚婦人会）、匿名有志（順不同）

*引き続き、協賛金の受付を行っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

創作民話「地下探検！マチカネワニ」

マチカネワニは、麻酔銃に狙われ危ないところを、地割れに救われ、地下の洞窟に落ちました。

「もう安心だ」といって、地下水の中を泳いでいきました。ところが進むうちに、ごみや死がいがたくさん流れてきました。便所やら毛染めの臭いやら訳の判らない臭いも漂ってきて、マチカネワニはぞろぞろしくなりました。

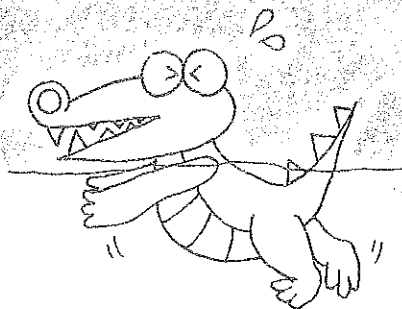
「この川はどこへ行くのだろうか？ 地上の人達は知っているのかな？ もしかして皆の秘密の川か！ とにかく早く逃げよう」

泣きながら出口を探して這っていると、いつの間にかビルの地下室にいました。

「マチカネワニは……。」「待兼山のワニが……。」人々の喋る声が一室から聞こえてきます。

「あー!!秘密の川を見てしまったことがばれたのかな？ どうしよう……」

次回まで乞うご期待！ (E三宅)



編集室から

昨年度に続いて協賛金をお願いし、各方面の団体の皆様が快く応じていただいたことを心よりお礼申し上げます。ところがその後、当てにしていた省エネセンターの補助金制度が変更になり、今年は半額しか出ないことになりました。もう少し基金があればと痛切に感じさせられています。財政面でもしっかりとした組織にしなければ、今までどおりの運動もおぼつかなくなります。足元から組織を固めることも大事な課題として、あれこれ考えさせられています。(Z)

広報チーム Z奥野、M荒井、R水谷、E三宅、N富田、M東郷、W高野

今後のスケジュール

ワーキンググループ学習会

- 日時 9月30日(土) 13:30~15:30
- 場所 くらしかん 3階 イベントホール
- 内容 森と地球温暖化
- 講師 ウータン・森と生活を考える会 井下祥子さん
豊中市環境企画課 川崎健次さん

自然学習講座Ⅱ

- 日時 10月7日(土) 13:30~16:00
- 場所 中央公民館 集会室
- 内容 謎だらけの恐竜~恐竜がどんな動物であつたか、その謎についてみんなと考えます
- 講師 大阪大学医療技術短期大学部名誉教授 八鹿 寛二さん

竹炭の会 炭焼き日

- 日時 10月21・22日(土・日)
- 場所 上野坂2丁目の空地
- *詳しくは事務局までお問合せください。

とよなか市民環境展2000

- 日時 12月9日(土) 13:00~17:00
12月10日(日) 10:00~16:00
- 場所 市民会館大集会室 ほか
- *詳しくは広報12月号をご覧ください。

自然学習講座Ⅲ

- 日時 12月16日(土) 13:30~15:30
- 場所 中央公民館 集会室
- 内容 昆虫について(仮題)
- 講師 国立科学博物館名誉研究員 上野 俊一さん

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時~
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分~
- ワーカーズグループ 毎月第3木曜日 19時~

◎産業部会 10月11日(水) 14時~場所未定

発行：とよなか市民環境会議
事務局：豊中市生活環境部環境企画課内
編集責任：奥野 享
〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1
TEL：06(6858)2106 FAX：06(6842)2802
★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政の
パートナーシップ組織です